

三四日俺は大阪に泊つた。

あくる日直ぐ刑事が二人連れで姉の家へやつて來た。

俺は妙布を脊中へ貼つたり、賣藥をのんだりして、誇大妄想的な昂奮をしよつちゆうしてゐた。

人並ならぬ行動も澤山やつたのだが、それは此處には書かない事にする。

大きい團扇にダダと書いて、俺はそれを脊中へさして、船に乗るべく築港へ行つた。

そして高松で途中上陸して、栗林公園をさまよふて、高松の警察の御厄介にもなつたのである。

四國の島へ着いたのだから、もう殺される心配はなからうと思つた。

可笑しいのはやつぱり高松の警察でも、刑事をわざと留置場の中へ入れといて、俺に色んな事を間接に聞かせて訊問をやつたり、精神の鑑定をしたりした事だ。

あくる日の船で高濱へ上陸した。

松山から郡中まで汽車に乗つて、それから歩るいた。

刑事が途中散髪代や馬車賃や、辨當代や宿賃まで支拂つてくれた。